

# 「お茶のよもやま話」

第701回関西蔵前午餐会  
2017.3.7 茅野文昭（S52機械）

---

## 1. 茶の伝来

- 唐の陸羽(733年～804年)が書いた『茶経』により、中国から初めて茶の知識が伝わってきたとされている。
- 『茶経』には、茶の木の育て方、収穫方法と道具、たてかた、飲み方、歴史を記載

## 2. 茶の栽培の始まり

- 1191年、臨済宗の開祖栄西禅師が宋の国から持ち帰った茶の種を佐賀県の吉野ヶ里靈仙寺の畑にまいたのが始まり
- 鎌倉時代初期、栄西は宋から持ち帰った茶種を明恵に送った
- 明恵は、その茶種を柵尾の深瀬の地に植え、その後、宇治の地にも播植した・・・これが宇治茶の始まり
- 13世紀半ば、後嵯峨天皇が宇治を訪問されたのを機に平等院に小松茶園、木幡に西浦茶園が開かれ、宇治茶の栽培が本格的に始まった

---

## 3. 茶香服(茶カブキ)

- 茶カブキは鎌倉時代から室町時代に流行した『鬪茶』という茶の種類を飲み当てる一種の遊びが起源にできた
- 『鬪茶』には、柵尾の茶を「本茶」、それ以外の茶を「非茶」として飲み当てるものや、四種類の茶を点て飲み当てるもの等

## 『飲時』: お茶はいったいどんな時に飲むのが一番相応しいか①

- 心身ともに余裕のある時
- 読書作詞に飽きた時
- 気分がいらいらしている時
- 歌や音楽を鑑賞する時
- 歌や音楽が終わった時
- 門を閉じ世間を避けている時
- 琴を弾いたり絵を見る時

---

## 『飲時』: お茶はいったいどんな時に飲むのが一番相応しいか②

- 夜も更けてともに語る時
- 明るい窓辺のきれいな机に向かう時
- 奥座敷や見晴らしのよい楼閣にいる時
- 客と主人が団欒している時
- よい客や可愛い女性といる時
- 友を訪ねて帰った時
- 風がおだやかで天気の良い時

## 『飲時』: お茶はいったいどんな時に飲むのが一番相応しいか③

- うすぐもりで、こぬか雨が降る時
- こんもりとした林、すらっとした竹やぶを眺めている時
- 花を手入れし小鳥の世話をしている時
- 静かな寺院を訪ね有名な泉や奇岩のそばにいる時

---

## 5. 紅茶と世界の動き①

- 紀元前2737 茶の始まり。中国の伝説で神様が香りに惹かれて茶葉入り湯を飲む
- 6世紀 中国・隋の時代に貴族の間で茶を飲むことが広がる
- 1191 禅僧の栄西が茶の種を中国・宋から日本へ持ち帰る
- 1214 栄西が『喫茶養生記』を著し、茶の効用を説く
- 1510 ポルトガル人、マカオから茶を本国に送る
- 1543 種子島に漂着したポルトガル人が鉄砲を伝える
- 1581 オランダ、独立宣言
- 1587 豊臣秀吉、北野大茶会を開催
- 1588 イギリスがスペイン無敵艦隊を破る
- 1600 イギリス東インド会社が発足。日本では関ヶ原の合戦

## 5. 紅茶と世界の動き②

- 1602 オランダ東インド会社の設立
- 1606 オランダ東インド会社がオランダに初めて茶を送る
- 1607 北アメリカに最初の植民地ジェームズタウンが建設される
- 1610 オランダ、マカオと長崎の平戸から緑茶を本国に送る。その後、本国で茶を飲むことが流行
- 1639 日本、鎖国体制に
- 1644 中国・明ほろぶ。清朝の始まり
- 1651 イギリス、航海条例を制定し、茶の輸入をイギリス船に限る
- 1657 ロンドンのコーヒーハウス「ギャラウェイ」が茶の販売を始める

---

## 5. 紅茶と世界の動き③

- 1659 イギリスで下級発酵茶ポヘアが売られる
- 1660 イギリス王制復古、チャールズ2世が亡命先のフランスから帰国
- 1662 チャールズ2世とポルトガルの王家の娘、キャサリンが結婚。茶を持参し、茶を飲む風習をひろめる
- 1664 フランス東インド会社を設立。オランダ領ニューアムステルダムがイギリス領ニューヨークとなる
- 1669 イギリス、茶をオランダから買うことを禁止
- 1688 イギリス名誉革命。ジェームズ2世はフランスへ亡命
- 1689 イギリス、中国広東から発酵茶を輸入
- 18世紀ころ イギリス、食料品店で茶の販売を始める

## 5. 紅茶と世界の動き④

- 1702 アン王女が即位。緑茶よりウーロン茶に似た発酵茶が好まれる
- 1717 トワイニングがロンドンに「ティーハウス」を開く
- 1730年代 ロンドンでティーガーデンが次々とつくられる
- 1773 ボストン茶会事件
- 1775 アメリカ独立戦争が始まる。翌年に独立宣言
- 1789 フランス革命
- 1823 インドでアッサム原種発見

---

## 5. 紅茶と世界の動き⑤

- 1833 アムステルダムで初の茶のオークションが開かれる
- 1834 ロンドンで茶のオークション
- 1839 イギリスがインドでアッサム茶葉の栽培にのりだす
- 1840 アヘン戦争始まる
- 1853 浦賀沖にペリー艦隊来航
- 1858 インド・ムガル帝国が滅亡、イギリスがインドを併合
- 1868 明治維新

## 5. 紅茶と世界の動き⑥

- 1869 多田元吉(1829~1896)、静岡丸子で茶の栽培を始める
  - 1874 政府が茶業を奨励する。製茶係を設ける
  - 1874 紅茶伝習所をつくる
  - 1876 多田元吉、紅茶伝習のためインドに派遣される
  - 1879 インドネシア・ジャワでオランダによる紅茶プランテーションの始まり
  - 1890 トーマス・リプトンがセイロンで大規模な紅茶生産を始める。紅茶が一般大衆に普及
- 

## 5. 紅茶と世界の動き⑦

- 1904 日露戦争が始まる。アメリカのセントルイス万博でアイスティーが売られる
- 1911 中国、辛亥革命
- 1914 第一次世界大戦始まる
- 1920 アメリカでティーパックが出回る
- 1939 第二次世界大戦始まる
- 1947 インド、パキスタン独立

## 5. 紅茶と世界の動き⑧

- 1949 中華人民共和国が建国される
  - 1972 セイロン、スリランカ共和国になる
  - 1989 ベルリンの壁崩壊
  - 2010 アメリカ中間選挙でティー・パーティー（茶会）旋風
  - 参考文献
    1. お茶のある暮らし（谷本陽蔵 著）
    2. 紅茶が動かした世界の話（千野境子 著）
-